

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ: <https://www.senshu-u.ac.jp/ischimaki/>

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の
情報は
大学HPで。



オープンキャンパス 体験型企画で魅力紹介

対面形式で実施 115人が来場

オープンキャンパスが催された。感染症対策の6月27日、対面形式で開 観点から事前予約制で行



われ、受験生や保護者など115人が来場した。昨年3月以降、オンラインでの実施が続いていたが、今年3月には少人数ながらキャンパスに招待。今回は、学生スタッフなどの在生も参加し、約2年ぶりに、対面形式でほぼ従来の通りプログラムを行った。

当日は、学科の学びを体験できる「学科説明＋模擬授業」、学生スタッフ

教室の後方から授業を見学し、気づいた点をメモする学生たち＝石巻市立住吉小学校



人間学部人間教育学科 学校3校を訪れ、国語や1年次生が6月21日と算数の授業を見学した。28日、石巻圏域にある小

人間教育学科1年次生 小学校で授業の進め方学ぶ

「 became a teacher」と語った。一方、守美久さん(宮城県石巻西高)は「先生の働きかけによりクラスの雰囲気が変わることが分かった。授業を参観して学んだことを教育実習に生かしたい」と述べた。

大学開放講座

「地元」テーマに 6 教員が講演

了した。今年度は「地元はいきもの」(高崎みつを知らう)を統一テーマに、本学の6教員が人文、宮城県や石巻地域に着目した内容で、毎回多く野について講演した。

同講座は、石巻専修大学の知を広く地域・社会に還元することを目的に1991年から実施。今年度は感染症拡大防止ら、代表者に修了証が手渡された。

5回以上受講した43人の知を広く地域・社会に修了証を授与。閉講式に1991年から実施。1長(理工学部教授)が今年度は感染症拡大防止ら、代表者に修了証が手渡された。

梅山センター長(右)から修了証が手渡された

人数を「定員(200人)の40%以内」に定め、対面形式で行った。

「金華山街道から見た石巻の変遷(横江信一 人間学部特任教授)」「北上川を力



情報マネジメント学科の学科説明

好評！ 模擬授業・オープンラボ



学生が作製したメスジカの全身骨格標本を展示した辻研究室



学内の調整池で生態系を調査

理工学部食環境学科と生物科学科の3、4年次生が水質環境工学の授業で、学内の水位調整池の生態系調査を行った。6月19日の授業のテーマは「現実の生態ピラミッドに入って触れ調べる」。学生たちは池に入り、試料として水を採取し、魚やカニなど多様な生き物にも触れた。池の水は教室に持ち帰り、顕微鏡で観察。調整池に生息していた魚介類の消化管の内容とプランクトンを調べた。干潮域に存在する特殊な河川の汽水域生態系の生態ピラミッドと、調整池内で進んだ食物連鎖のつながりを確認。学内の池に豊かな生態系が広がっていることを体感した学生たちは、自然に囲まれた環境の中で学ぶ楽しさを実感した様子で、今後の調

査に対する期待感を口にした。今回調査した調整池は北上川と水路でつながっており、食環境学科の高崎みづる教授は「このような特殊な水域を学内に持つ大学は世界的にも珍しく、海水と淡水両方の性格を併せ持つ貴重な大学資源だ」と話した。高山遼輝さん(理工4・茨城県第一学院高高萩校)は「自然が教科書通りの姿でないことが分かり、より深く調べたいと感じる魅力的な授業だった」と話した。



顕微鏡で池の水を観察



社会学視点で「当たり前」を疑う

人間学部人間文化学科 野島 那津子 准教授

NOJIMA NATSUKO

研究室 探訪

Black Lives Matter、感動ボロノなど)を取り上げながら専門的な概念について学んでいます。

ゼミでは歴史社会学の文献講読を通して、日本の雇用慣行、教育制度、社会保障制度などがいつ、どのような形で形成されてきたのかを学び、その仕組みを批判的に検討しています。社会学は常識を疑う学問です。社会にあふれる「当たり前」のなかには、多くの人々が滞りなく生活を送るうえで必要なものもある一方で、意味不明のものや少数の人々を生きづらくさせるものもあります。想像力を最大限に働かせ、一つ一つの「当たり前」を批判的に検討していくことで、学生の皆さんには「当たり前」を疑うことと「当たり前」ではない現実や考え方に思いを巡らすこと、すなわち物事を批判的かつ多面的に捉える力を身につけてほしいと思います。